念ずれば花ひらく～技能五輪への挑戦～

造園緑化コース

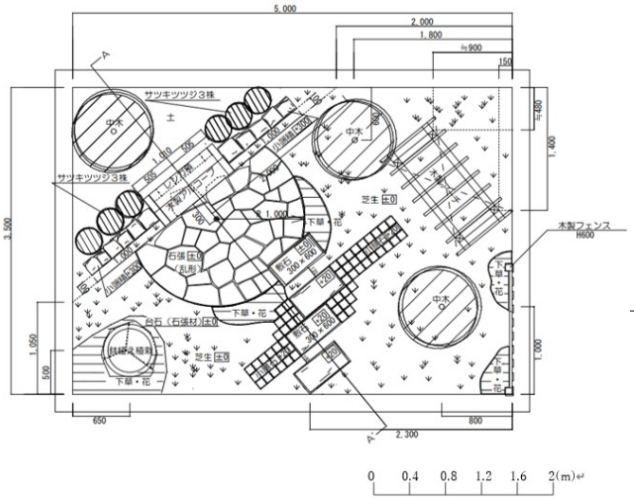
1　はじめに

高校生の時に、技能五輪全国大会に強い憧れを抱くようになった。技能五輪に出場し、入賞することを目標とし、また自身の知識、技能をさらに向上させることを目的とした。そのため、１年生の時には、若年者ものづくり競技大会に出場し、自身の技量を向上させた。２年生では、技能五輪全国大会が、二人一組の競技課題だったため、二年連続で出場経験のある、同級生の梅木夕佳と出場することになった。憧れの地で今までに培った知識、技能を発揮する機会となった。

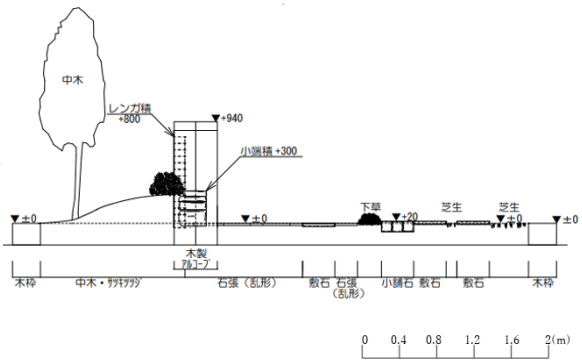
2　競技内容

（１）競技課題の図面

８月２２日に平面図、断面図、詳細図等が発表された。９月２１日に課題が変更され、敷石が１枚減り、石張りの範囲が変更となった（図－1,2)。



図－1　変更後平面図



図－2　変更後断面図

（２）石積み（小端積み）

ポイントとして、根石は大きく面が平らなものを、角石は角が直角なものを選ぶ。目地は縦の通りをつくらないこと、単調にならないように石の大小をバランスよく配置すること、石積みの表面は平らになるようすること、割った面を見せないように積むことがあげられる。

練習を続けると、以下の課題が見つかった。①石積みの両端の角が外側へ広がっていく、②天端が水平および、一直線にならない、③目地が大きく縦に通る、④右側と左側で石の大小のバランスが異なることが挙げられた。

対策は、①については石を根石、角石、天端石として使えそうなものを仕分け、角石は直角なもの、天端は、平らで、エッジが直線となっているものを選んだ。②③④については､作業中に離れて確認し､石の大きさに注意して積むように練習を行った。

（３）フェンス

ホゾのノコ目が斜めになる、隙間があく、時間のかかることが課題となった。

対策としては、ガイドを当て真っ直ぐ材を切る、立子はまとめて切る、何度も練習し寸法を覚え、無駄な動きをなくすことに注意した。

３　競技当日

１日目では全体を通して、時間ばかり気にしてしまい、些細なミスが多く細部までこだわることができなかった。特に石積みでは、練習とは異なる石材のため練習で出来ていた石のバランスや目地などが綺麗にできずに終わってしまった。他の作業では、焦りはあったが、練習通りに終えることができた。整地、片付けでは、時間に余裕がなかったが、最後まであきらめずに行い時間内に終了することができた。しかし、２日目の分の作業には、取りかかれず終わってしまったので、不安が残った。

２日目は、梅木と作戦会議を行い、アーチの木材を切り出している間に、梅木が据え穴と石積みの四ツ目地を直すことにした。アーチの組み立て、据え付けはスムーズに進んだ。芝の植え付けでは、芝の継ぎ目を合わせ、練習よりもきれいに張ることができた。後半になると、二人で分担して仕上げていくので、常に周りを見て作業を行った。初めての大会で、練習では分からなかった手順や勝手もあったが、梅木の指示もあり、無駄なく全体の仕上げができた（写真－1）。

写真－1　完成

４　まとめ

若年者ものづくり競技大会で課題となった、樹木の正面を見極めること、最後まで手を抜かないこと、無駄な動きをしないことに注意し、課題を解決することができた。しかし、石のバランスが悪いという課題は、練習の時点で改善できたが、大会では、上手く行うことができなかった。これらを踏まえ、新たな課題が生まれた。時間ばかり気にして、仕上がりが疎かになること、順応力に欠けることが課題となった。だが、大会の練習の過程では、様々な場面で成長することができた。大会に向け、限られた資材をどのように使うか考え、計画を立て長期間の練習を行うことで、計画力が身に付いた。２人で連携する作業では、目の前のことだけに集中するのではなく、視野を広くして、周りを気にしながら作業ができるようになった。練習を続け、最後まであきらめない忍耐力が身についた。これらの力は、社会へ出て必要となることなので、とても貴重な経験となり、今後さらに伸ばしていこうと考えた。

結果として、敢闘賞を受賞することができ、努力が報われて嬉しく感じた。結果だけではなく練習過程で、壁にぶつかることで新たな課題点が見え、その課題をクリアすることで、成長できた。技能や知識だけでなく、精神面も鍛えることができた。身に着けた技能、知識を強みに、社会へ出た際はさらに深め、技能五輪で課題となったことはしっかりと見つめなおして、仕事をしていく中で解決していくこととしたい。